大窪池（おおくぼいけ）

位　置　図

諸　元

貯 水 量	847.9	千m3
満水面積	15.4	ha
受益面積	207	ha
堤　　高	12.2	m
堤　　長	1,092	m

大窪池は丸亀市の南部、国道 438 号線の西側に位置するため池で、池名の由来は、同市綾歌町岡田から飯山町下法軍寺に南北に延びる大きな窪地にあることからと云われています。築造されたのは正保 4 年(1647 年)とされ、正保 2 年(1645 年)の未曾有の干ばつを契機に高松藩主松平頼重(まつだいらよりしげ)が矢延兵六(やのべへいろく)らに命じ、領内に築かせた 406 箇所のため池の一つがこの大窪池と云われています。その後、文化 7 年(1810 年)に堤防のかさ上げ、大正 12 年(1923 年)には木造であった底樋を石造に改めるなどの大改修が行われてきましたが、築造後長い年月を経て老朽化が進行し、漏水が極めて多くなったことから昭和 49～55 年度(1974～1980 年)に県営大規模老朽ため池等整備事業で全面改修が、さらに平成 13～14 年度(2001～2002 年)には、国営総合農地防災事業でグラウトと浚渫工事、平成 28 年度(2016 年)には県営ため池耐震化整備事業で、南海トラフ地震に備えた耐震化工事が行われました。

また、大窪池の東側には平成 23 年度(2011 年)に遊歩道が整備され、清らかな池面に映る飯野山と四季折々の田園風景との調和を楽しみながらの散歩コース『さぬき富士が映る道』として地域の人々に愛されています。

さぬき富士が映る道

堤防から望む田園風景